

民主島根

2017年
10.29
第1298号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

共産・立憲・社民3党全体で前進

向瀬慎一氏 島根2区 得票率伸ばす

立憲主 亀井亜紀子氏、比例復活当選

日本共産党は、比例代表では、前回獲得した20議席(得票606万票、得票率11.37%)から11議席(同440万票、同7.91%)への後退となりました。比例中国ブロックの大平喜信氏の議席を守り抜くことはできませんでした。

小選挙区では、「オール沖縄」の枠組みでたたかった赤嶺政賢氏が沖縄1区で勝利して7選を決め、合わせて12議席を獲得しました。

今回の選挙では、日本共産党、立憲民主党、社民党の3野党が協力・連携してたたかい、立憲民主党が公示前の15から55議席へと大きく躍進し、3野党全体としては、公示前の38から69議席へと大きく増やしました。



投票開票翌日、公約実現に向けた決意を訴える岩田氏ら(松江市)



比例候補としてたたかった大平、垣内、岩田の各氏ら(松江市)



日本共産党は、共闘勢力の一本化のために、全国67の小選挙区で予定候補者を降ろし、島根1区においても、党公認の岩田剛氏を取り下げて、自主的支援を行った立憲民主党の亀井亜紀子氏(写真)が自民党の細田博之氏を激しく追い上げ、比例中国ブロックで復活当選しました。4年ぶりの国政復帰を果たしました。

共闘勢力一本化の決断が、共闘勢

島根2区で奮闘した向瀬慎一氏は22938票(得票率12.6%)を獲得し、前回2014年衆院

亀井氏 「憲法9条を守る」 新しい国会で奮闘する決意語る

選の20479票(同11.4%)から大きく前進しました。(2面に「比例・得票結果」を掲載)

者を取り下げて、自主的支援を行った立憲民主党の亀井亜紀子氏(写真)が自民党の細田博之氏を激しく追い上げ、比例中国ブロックで復活当選しました。4年ぶりの国政復帰を果たしました。

共闘勢力一本化の決断が、共闘勢

党の政策に共感と期待の声 大平、垣内、岩田氏が訴える

大平、垣内、岩田氏が訴える

衆院中国ブロック比例候補として奮闘した大平喜信氏と垣内京美氏、岩田剛氏は24日、松江市の大規模商業施設前でそろって宣伝し、公約実現の決意を述べました。(写真左上)

大平氏は「核兵器廃絶のたたかい、消費税10%増税阻止など、選挙戦で訴えた政策に共感と期待の声を広げたと確信しています」と述べ、「たたかいがこれからです。ブレない

衆院中国ブロック比例候補として、市民と力を合わせて、引き続き頑張りたい」と決意を表明しました。

垣内氏は、「市民と野党の共闘の力で安倍政権に対抗し、くらしと憲法を守るたたかいに力を尽くします」と述べ、要求実現に全力を挙げると訴えました。

駆け付けた人々は「頑張れ」と激励し、拍手を送りました。

県議会決算特別委員会が23日開かれ、日本共産党の尾村利成、大國陽介の両県議が質疑に立ちました。

尾村県議は、介護保険料未納者が4145人(2016年度末)に達し、未納者に対し225件もの年金差し押さえが実施されていることを問題視。「高齢者の生活の糧を奪うことは許されない」と強調し、保険料、利用料の軽減を強く求めました。

国保では、2016年度中に松江

介護・国保、米軍低空飛行訓練など 尾村・大國県議が質疑

市が3億円余りの基金を積み立てるなど19市町村中17市町村で基金の積み立てが行われています。

尾村県議は、高い保険料・税を引き下げるためにも「積み立てではなく、基金の取り崩しや一般会計からの繰入こそ必要」と強調しました。

大國県議は、無法な米軍機の低空飛行訓練中止に向けて「知事を先頭に、国に対して強い姿勢を示すことが重要だ」と迫りました。

鼓動 「雨だろが、雪だろが、関係ない。それぐらい大事な選挙」「憲法9条を簡単に変えさせてはいけない」「昨日はみんなで300軒に電話をかけました」――汗がにじむ暑い日も、寒風が吹く雨の日も、たくさんの支援をいただいた総選挙。比例中国の議席を失う申し訳ない結果となった。深くお詫びするとともに、捲土重来を必ずと決意している

▼公示直前に野党第一党が「安保法制容認」「9条を含む憲法改定」を掲げる政党に合流。日本共産党は、市民と野党の共闘で政治を変える立場を貫き、野党勢力の一本化に尽力した。日本共産党が候補をたてなかった83選挙区中32選挙区で立憲、社民、無所属候補が当選。島根1区のような比例復活も含めると54人が勝利した。実に勝率65%だ▼与党は議席の3分の2を占めたが、これは大政党内に民意をゆがめる小選挙区制がもたらした「虚構の多数」に過ぎない。議席数の変化をみれば改憲政党は公示前より15議席減。共産・立憲・社民は31議席増。国民の世論がどう変わっているか、方向は明確だ。「野党共闘 1強に風穴」(新潟日報)など全国で本気の共闘が自公を追いつめ、マスコミも注目した▼選挙の結果は投票した瞬間の有権者の判断。ある意味「途中」の結果だ。「31議席増」に示された国民の民意をこそ胸に刻んで、外交、経済、原発、憲法、核兵器――公約実現へ力をつくしたい▼それでも：本当に悔しい結果だった。この悔しさをバネに、どんな逆流があっても負けない党の力をつけていきたい。今後ともご支援をよろしくお願いたします。(後)